

# 業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2026. 2. 21

No. 751

## 2026春闘 趣旨説明

2月20日、趣旨説明を行いました。以下、報告します。

2024年9月に輪軸組立不正が発覚し、会社全体で信頼回復に向け取り組んでいるなか、脱線事故や鉄道人身障害事故が連続して発生しており、この危機的状況を労使が一体となって打破し、安全確立に向け、今一度、考え直さなければならないことを強く言うておく。

あわせて、現場で働く組合員は、失った信頼を取り戻すため、国からの指定公共機関の責務として、昼夜を問わず、輸送障害が頻繁に発生している中においても、安全安定輸送に向け懸命に努めていることを強く認識していただきたい。

日常生活において、物価や光熱水費等を含め、全てのものが値上がりし、組合員の生活は相当厳しいものとなっている。2025春闘・2025年度期末手当においては、期待も虚しく低額回答に終わり、物価上昇の波に賃金が全く追いついていない状況は、会社も理解しているはずである。会社は、将来にわたり安心して働ける労働条件として、65歳定年制導入等々の人事制度一部修正を行ったが、今の生活レベルを上げたい若い社員の心には響いておらず、その結果、入社してから10年未満の離職率が高くなっている。

他の企業は人材確保のため、賃金アップや働きやすい職場環境作りを積極的に進めており、将来を見据えた改革を断行している。輸送障害や自然災害が多発し業績が思うように伸び悩み、会社が描いた展望に届いていないことは十分に理解しているが、このような状況下においても将来を見据えた、良い労働条件や環境整備を示すことは、JR貨物を構築していく上で大きなアピーとなり、離職防止や優秀な人材確保の足掛かりに繋がる。これは、グループ会社においても同様なことが言え、世間からの期待に応えていくためにも、JR貨物グループ全体の士気を向上させ、将来への発展に繋げていくことが必要である。

貨物鉄産労は、会社経営を常に考え、JR貨物グループにおける政策課題解決に向け、JR連合と共に取り組んでおり、今年度だけの業績に特化せず、これまでの業績を考慮しても私達の主張に答えられる体力は十分にあると認識する。2027年にはアボルール改定が迫っており、この課題においても早い段階から各旅客会社と話し合いを行っている。先にも述べたが、組合員の安全安定輸送により、日々、大きなトラブルもなく列車は運行され、会社が策定した「JR貨物グループ長期ビジョン2030」を構築するためにも組合員の協力が不可欠であり、会社全体の士気を上げるためにも労働条件改善は必須である。

最後に、これまでに全国各地で起きた甚大な自然災害により、多くの方々が被災され復興にはまだまだ時間を要する。被災された方々のためにも、復興に貢献できる安全で信頼される会社を築き上げ、社会的使命を果たしていかなければならない。失った信頼を取り戻すには、まだまだ時間を要

---

し、会社の状況が厳しい時こそ経営者の手腕が試される。2026年1月23日の支社長意見交換会において、真貝会長は「人材確保・人材育成を各支社においてもよく考えて、グループ全体の施策として実行することに結び付けてほしい。言うまでもなく、企業を支えるのは『人財』である」と発信し、犬飼社長は「社会から必要とされる存在になるという原点に立ち返れば、運輸収入にしても安全にしても、結果として表れてくると私は信じている。結果が表れないということであれば、それは基本的なことや社会から必要とされるということが出来ていないことであり、もう一度、基本に立ち返ってほしい。当社は何を指して、何のために存在し、何を社会に提供しているのか、そういう基本的な部分に立ち返って、各支社で自身が為すべきことを考えてほしい」と、厳しい言葉を発信しており、JR貨物が大きな岐路に立たされていることを物語っている。

今後、予想をはるかに上回るスピードで人口減少は進み、人材確保・人材育成・人材定着が出来なければJR貨物の将来はない。労働者が疲弊すれば、企業の持続的発展は望めず、労働者の生活安定なくして、安全や品質を守ることは出来ない。JR貨物グループブランドを高めていくには、「人への投資」を積極的に進め、離職を減らし、優秀な人材を確保していかなければならないことを強く申ししておく。

以上を踏まえ、労使は同じ船に乗っており、役割・立場は違っても労働者が傾けば船が傾くことを強く認識していただき、組合員の悲痛な叫びと私達の主張を受け止め、満額回答を強く求める。

**会社・貴組合の趣旨は承った。今後、真摯に交渉を進めていきたい。**

**組合・JR貨物の今後を左右する、大きな局面に立っていることを十分に理解していただきたい。会社がどんなに良い未来図を描いても、それを達成するためには人材の力が必要不可欠である。転職サイトが充実し、今の若い世代は転職に対して不安を抱かない。真貝会長が発言しているように、「人材確保・人材育成」がより重要になってくる。会社の体力論も勿論重要であるが、それ以上に大切なことは分かっているはずである。会社が厳しい状況に置かれていることは十分に理解しているが、このような局面で力を見せるのが立派な経営陣である。我々の生活も相当厳しいことを理解していただき、真摯に交渉を進めていただきたい。**

**会社・貴組合の趣旨を経営陣に伝え、真摯に交渉を進めていきたい。**

以 上

**次回交渉 収入動向は、3月2日（月）を予定しています。**

---